

Series clinic visit coverage

初診時に
お話をうかがい説明する
そこから安心スタート！

基本的に予約制ですから、予約の患者さんを優先的に診ます。そして初診では、はじめに問診票にご記入いただき、今後行う検査について看護師から説明をします。これまでの治療歴についてももうかがいますので、患者さんごとの時間的な差は生じますが、おおよそ10分です。その後、可能な検査をいたします。

診察では、問診票や看護師からの情報、検査結果を元に、問診(話し合い)から、どのような治療があるのかお伝えして、さらに今後必要となる検査日程や治療スケジュールをお伝えします。

最初は緊張している方が多いですから、いろいろなことを一気にお話しても混乱されるでしょうから、まずは分りやすく心をかけています。

料金についてもご説明しますが、詳しくはホームページにも記載がありますので、みなさん、事前に参考にされている様です。

月経周期に
合わせ行う検査
項目に違いは合っても
いつでもできます

検査はご夫婦それぞれにあります。

男性は精液検査が主で、量や質・運動性や直進性、奇形率などを診ます。この結果によって治療方針が決まることもあります。

女性の検査は、ホルモンの値と、エコーで卵巣や子宮の様子、卵管などを診ていきます。

そのため、月経周期の〇日目と〇〇日目というように、通院する必要があります。

初診のときにできる検査は初診の時にしておきます。そのときを逃すと次周期まで待つことになるため、検査は、適時、早めにしておきます。

最初は緊張もされるでしょうが、何回か通ううちにクリニックの雰囲気に慣れていただけるようにと心がけています。

ご夫婦で話し合わせ、安心してお越しください。

for your plan ● 基本的な検査

- 1 ホルモン検査**
低温期 ▶ (月経1日目～5日目) 不妊原因となるホルモンが分泌されていないか、量が適正かどうかなどを血液検査で確かめます。
●エストロゲン ●LH ●FSH ●プロラクチン
高温期 ▶ (排卵から1週間経過後) 黄体機能に異常がないかなどを確認します。
●エストロゲン ●プロゲステロン ●AMH (抗ミュラー管ホルモン) の検査 (保険適応外) をします。
※AMHは卵巣内に今後排卵してくるであろう卵子がどれくらいあるかを予測する検査。加齢とともにAMHの値は低下しますが、年齢に関係なく数値が低いようであれば早くに妊娠できるような治療プランを立てる目安にもなります。
 - 2 病気の検査 (保険適応外)**
感染していたり、感染歴があると、不妊原因や妊娠時に影響が出ることがあるため、予め検査しておきます。
クラミジアやトキソプラズマなどがあります。
また、女性には甲状腺の病気が多く、卵管検査ができなかったり、不妊原因になるため、甲状腺ホルモンの検査も実施しています。
 - 3 卵管検査**
卵管がきちんと通っているか、つまっていないかをチェックする検査です。
通気、通水、卵管造影と3つの方法があり、子宮卵管造影検査を実施しています。
造影剤を使ったレントゲン検査で、卵管の通過性だけでなく子宮の形態を確認できます。
この検査は月経中および排卵後にはできません。
 - 4 フーナーテスト**
性交後12時間以内におこなう検査で、精子が経管粘液内にあるかどうかで子宮内に進入しているか推測します。
 - 5 エコー検査**
他の検査は頻繁にするものではありませんが、エコー検査だけは毎月おこないます。
卵胞の数、大きさ、子宮内膜の厚さ、排卵の確認をします。周期ごとの排卵を逃さないために欠かせない大切な検査です。
 - 6 精液検査 (男性)**
精子濃度、運動率、奇形率、運動性などを確認する検査です。
- ※その他、いつでもできる検査/感染症、がん検査、〇〇、〇〇など

クリニックを訪ねて

不妊治療で
気になること

まとめて
お話を!

あなたに合った治療プランは?

まずは基本的な検査をして
確認しましょう!

東京都世田谷区で診療の
三軒茶屋ウィメンズクリニックを
訪ね、実際の不妊治療の流れを
お聞きました。



三軒茶屋ウィメンズクリニック
保坂 猛 医師
Dr. Hosaka Takeshi

はじめてクリニックに足を運ぶときは、どうしても緊張してしまうかと思えます。そのときに、最初にどのような検査をするのか、どのような流れで治療が進んでいくのかを知っていれば、その緊張も多少やわらぐのではないのでしょうか。さらにそこから、あなたに合った治療プランが、検査から提示されるのであれば、より治療に通う際の安心にもつながることでしょう。

すぐに妊娠希望！
将来的に子どもがほしい…
あなたに合った
治療プランは？

クリニックにいらっしゃる方は、すぐに妊娠を希望されている方と、今すぐではないけれど将来的にお子様を持ちたいと考えていらっしゃる方が当院を訪れます。

どちらのケースも検査が大切な意味を持ちます。

後者の方は、基本的な検査をして、将来的に妊娠をご希望されたときに、不妊治療が必要になるのか、また、ご夫婦で頑張ってみられても良さそうなのか、年齢なども考慮して、その期間の目安などを

お話しします。

一方、すぐに妊娠を希望されている方が知りたいのは、自分にはどのような治療が必要なのか、つまり、これからの治療プランです。

これにも、その方の年齢や状態、これまでの治療歴なども参考材料に、その方に合った治療プランを検査から立てていきます。

しかし、最近はその方のご希望によって、治療プランを立てることもあります。たとえば、体外受精までの治療をしている施設では、転院されて来られる方や自分たちの状況から、体外受精を最初から希望されている方がいるからです。また、それは逆になるべく体外受精はしたくないという方もいらっしゃいます。そのような時にも、どのような希望があるのか話し合いながら、プランを立てていくこともあります。

基本、検査から探って何が妊娠するためのベストプランなのかを提示し、患者さんそれぞれに対応していくことが大事なことだと考えています。

Series clinic visit coverage



受診される方のほぼ全員が年齢のことを気にされていると感じます。

ですから、こちらでも年齢を踏まえたうえで必要な治療については、率直にお伝えする

年齢によって治療プランは異なる
妊娠と年齢の関わりは深いので、年齢を踏まえた治療が必要です

患者さんの多くは働いています。仕事との調整で通院予定を立てるのに難しいこともあるでしょう。

検査結果と治療スケジュール
ストレスなく治療に臨むために

年齢が高めの場合の排卵誘発方法は？
刺激があまり強くない飲み薬を使った「低刺激法」が増えていきます。年齢を重ねると卵巣機能も衰え、強い刺激では思うように卵子は採れず、

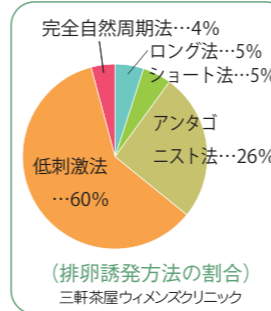
ただ、患者さんによっては、体外受精はあまり受けたくないという方もいらっしゃるから、その場合は、患者さんのご希望に沿ったなかで結果を出せるように努力しています。また、それが私たちの役目だと考えています。

若い方でも前に治療歴があつて、それでも妊娠していないのであれば、年齢だけをみて「まだ若いから大丈夫」とは言えません。その方の状態を踏まえた判断は必要です。具体的には、こういった治療をしていくかは、何よりもご本人の希望を尊重しますが、ご希望通りの治療では妊娠が難しいという場合は、そのこともきちんと伝えてご夫婦で相談していただくことがあります。

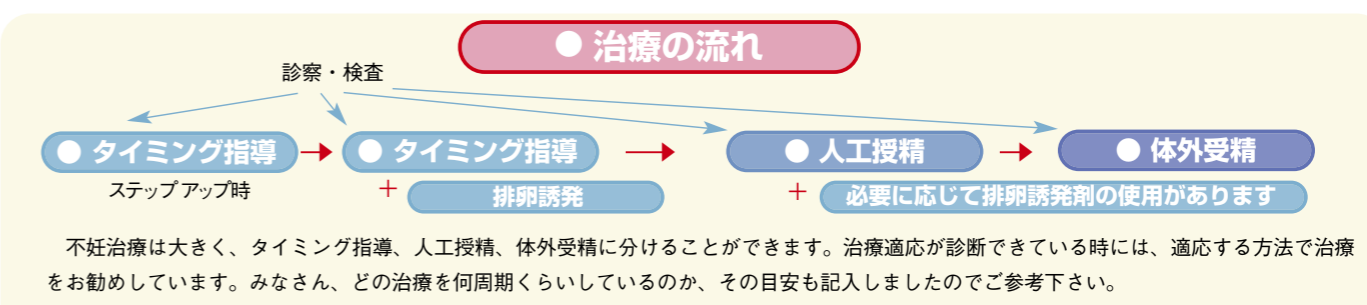
私たちスタッフ一同、ご夫婦の夢をかなえるために、精一杯ご協力しております。そして一人でも多くの患者さんが、治療を受けて良かったと思っただけのよう全力でサポートいたします。

妊娠をご希望している患者さまへ
胚(受精卵)は、分割期にある初期胚もしくは胚盤胞まで育った胚を、採卵周期に移植する新鮮胚移植と、胚を凍結保存して、次周期以降に移植する凍結融解胚移植があります。最近の当院の傾向では、どちらかといえば凍結胚のほうが妊娠率は高いのでお勧めしています。

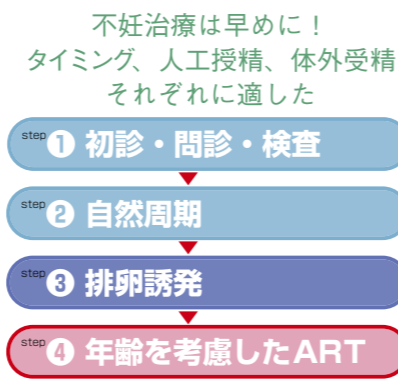
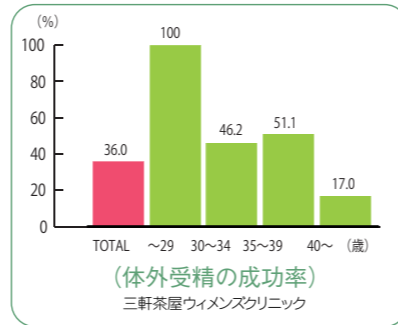
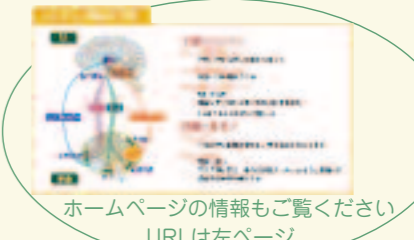
新鮮胚移植と凍結胚移植
低刺激法で育つ卵子を採卵して良好胚を得る方が良いとされているからです。なかには、多くの卵子が採れそうな方もいますので、その場合は、相談のうえ注射で刺激をすることもあります。



①②の基本的な検査をするのに必要な来院回数は5〜6回です。
卵管造影検査、フーナーテスト、エコー検査はその場で結果がわかります。
ホルモン検査、AMH検査、感染症検査の結果がわかるのは、だいたい1週間後です。
※他院で検査をしたことがある方の場合
前回の検査からあまり間隔があいていなければ、その検査結果を参考にすることもあります。また、これまでの治療歴や薬への反応などがわかれば参考になりますから、説明できるように、ノートにまとめておくなど、伝える準備をして来院されるのがよいでしょう。
どこに問題があつて、どこが上手くいかなかったか、それがわかると治療プランを立てるのに役立ちます。



- ▼自然排卵でのタイミング指導 2〜3周期
エコーとホルモン検査、基礎体温などから排卵日を予測し、タイミング指導をします。この間に検査もだいたい終了します。検査結果をみても問題がないのに妊娠に結びつかない場合は、卵を育てる目的で、「排卵誘発剤」を使っていきます。
- ▼タイミング指導+飲み薬 (クロミフェン) を服用 3〜6周期
薬の使用法は患者さんそれぞれに合わせて、複数排卵で多胎妊娠が起きないように注意しながら進めます。複数排卵が予測できる時には、その周期のタイミングをストップすることもあります。(以下、同様)
- ▼タイミング指導+注射 (HMG) を使用 3〜6周期
飲み薬および注射で卵巣刺激をしても結果が出なければ体外受精を考える段階に入ります。
- ▼人工授精をする場合 3〜6周期
人工授精は治療の順番としては、タイミング指導の次に実施します。しかし、精子が少ない方や性交渉がうまく持たないご夫婦なども適応ですから、その場合は最初から人工授精をします。
- ▼体外受精 3〜4周期
タイミング指導でも、人工授精でも妊娠できない時に、採卵して体外で受精状況を確認しながら、受精した胚を子宮に戻す(移植する)のが体外受精です。ここでポイントになるのは、採卵までの誘発剤の使い方。ご夫婦の治療歴や検査結果などから、直接、この体外受精をする方もいます。



ex. 治療プラン1

例えば41歳でAMHの数値にも安心できる場合
(※AMH値は2.0hg/mlを下回ると妊娠する力が落ちてきた、1.0を下回ると妊娠は難しいといった基準があります)

- ▼タイミング指導 (もしくは人工授精) + 飲み薬 (クロミフェン) を服用 2周期
- ▼タイミング指導 (もしくは人工授精) + 注射 (HMG) を使用 2周期
- ▼体外受精

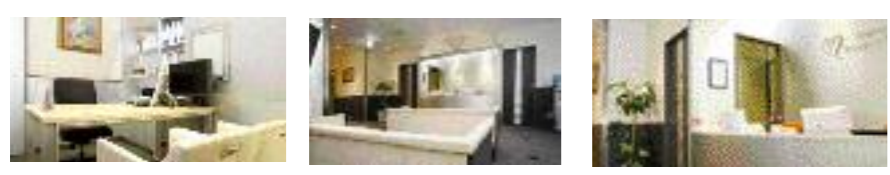
ex. 治療プラン2

例えば41歳でAMHの数値にも心配ある場合

- ▼タイミング指導 (もしくは人工授精) 1周期
- ▼タイミング指導 (もしくは人工授精) + 注射 (HMG) を使用 1周期
- 注射を1回使い、卵巣がどれくらい反応するのかを確認することで、体外受精のときに注射の量を定める目安になります。
- ▼体外受精

保坂 猛 医師プロフィール

聖マリアンナ医学大学卒業後、産婦人科勤務。大田原赤十字病院勤務。聖マリアンナ医学大学産婦人科非常勤講師、ファミリークリニック東京勤務を経て、2011年2月2日三軒茶屋ウィメンズクリニック開院。医学博士・日本産科婦人科学会認定、産婦人科専門医。日本生殖医学会認定生殖医療専門医、母体保護法指定医



三軒茶屋ウィメンズクリニック

03-5779-7155
東京都世田谷区太子堂 1-12-34-2F
<http://www.sangenjaya-wc1.com/>